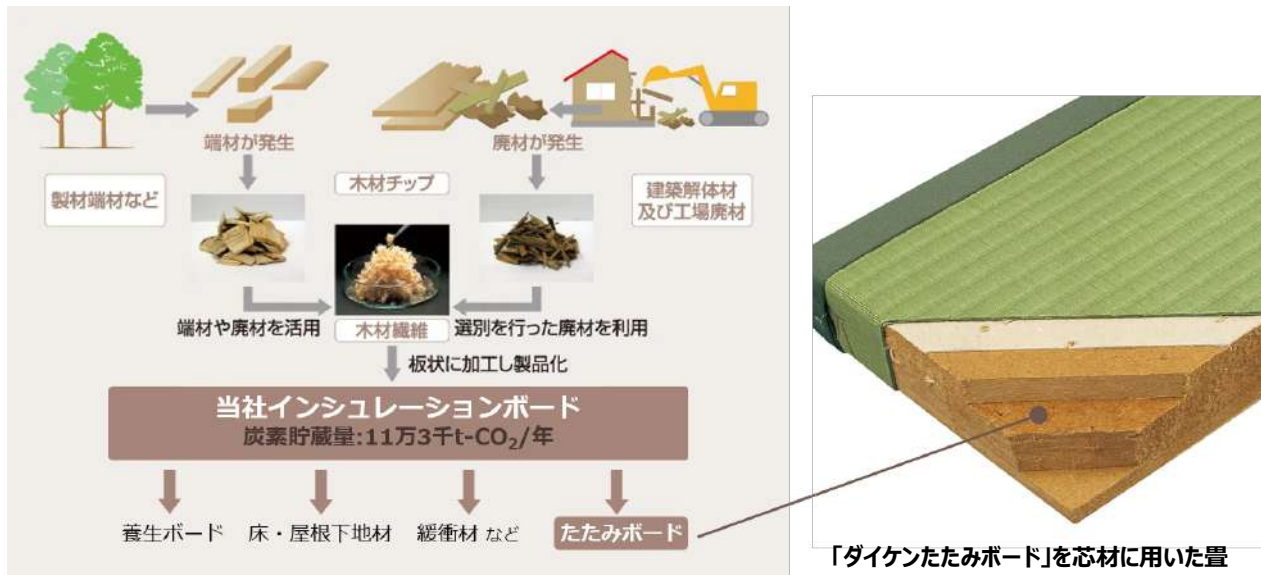


～持続可能な社会の実現へ、炭素貯蔵機能で大気中のCO<sub>2</sub>削減に貢献～

### 「ダイケンたたみボード」が発売 50 周年を迎えました

大建工業株式会社(大阪市北区、社長: 億田正則)は、<sup>たたみボード</sup>畳床(畳の芯材)として使用される「ダイケンたたみボード」が、今年度「発売 50 周年」を迎えましたのでお知らせします。

「ダイケンたたみボード」とは、建築廃材や製材端材を原材料とする木質繊維板「インシュレーションボード」の用途の一つとして、畳床向けに当社が 1973 年より製造・販売するものです。炭素貯蔵機能を有する木材を無駄なく有効活用したサステナブルな素材として、CO<sub>2</sub> の排出抑制に貢献しているほか、現在、国内で流通している畳床の約 7 割のシェアを誇るなど、環境に配慮しながらも、伝統ある日本の畳文化の継承を陰ながら支えているロングセラー製品です。



樹木はその成長過程で大気中の CO<sub>2</sub> を吸収し、炭素として木の内部に固定することから、木材でできた様々な製品には、炭素を貯蔵する働きがあるとされています。しかし、一定の役割を終えた木製品を廃棄して焼却した場合、貯蔵した炭素を CO<sub>2</sub> として大気中に放出することになるため、木材や木製品を焼却せず、出来るだけ長くマテリアル利用し続けることは、大気中の CO<sub>2</sub> 削減につながり、気候変動の緩和にも貢献することとなります。

創業当時より、木材を貴重な資源として有効活用し、環境に配慮したモノづくりを展開している当社は、1958 年、国内の建築業界で初となる、木材チップを原材料とする木質繊維板「インシュレーションボード」の製造を開始しました。当初は、吸音天井板や壁材用途としての販売からスタートし、その後「インシュレーションボード」ならではの特性を活かした用途展開として、1973 年に「ダイケンたたみボード」を開発、発売。そのクッション性、断熱性、軽量性や湿気の吸放湿性などの優れた性能に加えて、環境にも配慮したエコ素材であることから、多くのお客様より高いご評価を頂いており、従来のワラ床に代わる畳床素材としてロングセラーを続けています。現在では、国内で流通する畳床の約 7 割に「ダイケンたたみボード」が使用されるまでに普及し、おかげさまで今年度、発売 50 周年の節目を迎えました。

なお、当社「インシュレーションボード」は、たたみボードの他にも、養生材や緩衝材、床下地材など、現在様々な用途として販売しており、環境にやさしい木質素材として、炭素貯蔵に貢献し続けています。2022 年度の「当社インシュレーションボード年間販売量」を炭素貯蔵量に置き換えた場合、「約 11 万 3 千 t-CO<sub>2</sub>/年\*1」となります。これは、日本人が 1 年間に排出する CO<sub>2</sub> 量を 2t とすると\*2、年間で約 5 万 7 千人分の CO<sub>2</sub> 排出量に相当する炭素貯蔵量となり、インシュレーションボードの高い環境貢献度を表しています。

当社は今後も、木質素材における炭素貯蔵の役割を改めて広く訴求するとともに、時代のニーズに則した積極的な用途展開を通して、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

(※1) 林野庁「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン」の計算方法に準じて算出

(※2) 参考: 環境省「家庭部門の CO2 排出実態統計調査(家庭 CO2 統計)」

以上

※ここに掲載されている情報は発表時のものであり、ご覧いただいている日と情報が異なる場合があります。あらかじめご了承ください。